

平成24年度「みえの現場・すごいやんかトーク」(若者就労支援)の概要

8月20日(月)にアスト津のおしごと広場みえで「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

今年度は、市町別の開催とは別に、県が注力していくテーマについて、関連する分野で活動している団体などから横断的にそのテーマに基づくご意見をお聞きするテーマ別の「みえの現場・すごいやんかトーク」も実施しており、今回は、「若者の就労支援」というテーマで開催しました。

当日は、みえ若者就労支援ネットワークに参加している団体を代表する皆さん13名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 福祉の支援からは外れてしまう軽度の障がいを持っている人や、ニートやひきこもりなど、働きたくても働く場がない人たちのために、ユニバーサル就労や中間就労の場を提供していく必要がある。
- 発達に課題を抱える子どもたちに対して、集団の中で関わることで変わってくることもあるので、予防という観点から早い段階で関わるのが大切。
- それぞれの企業や事業所の中には、0.5人分の仕事があったり、また一人でやる仕

事を分けることで働く機会を提供できるので、この仕事にはこんな能力が必要などの情報を共有していくことが大事。

- 子ども若者育成支援推進法が施行されているが、三重県では全く手付かずの状態。三重県もワンストップの総合相談窓口や家族支援を含めて包括的に支援していく仕組みが必要。また、ひきこもり地域支援センターも三重県には無く、専門的なサポート体制を早く整備していくべき。
- 行政の財政的な支援を期待するだけでなく、軽度の障がいをもっている方やひきこもりの若者はどんなことができ、どんなことができないのかという情報を、企業側へ明らかにしていくことも必要。
- それぞれの機関でしっかりとした支援を行っているが、それがつながっていない気がする。新しい制度や仕組みをつくるのも大事だが、今ある制度や支援体制を活用して、つなげていくことが必要。
- 三重県の場合、8千人のニート、3万人の非正規雇用の人がいる。つまり、3万8千人の若者が宙ぶらりんの状態で、大きな経済的損失である。ニートの人を調査したところ、97%の人が働きたいと言っている。その若者と企業を橋渡しする機関が重要。
- 若者を支援すると言うより活用が必要。過疎地や農業など、若者を欲しいところがある。そこへ雇用を回して行って、地域を元気にする。三重県の雇用も増え、地域も元気になり、若者も幸せになる。こういう仕組みを考えてもらいたい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 三重県では、他県に比べるとワンストップの総合相談窓口やひきこもり地域支援センターなどの整備が遅れているというご意見をいただいたが、かぶっている機能も多いと思うので、他県の動きを見据えつつ、三重県内でのこれまでの活動も踏まえて、三重県では、どういう受け皿や仕組みが利用者側からみたらよいのかを一度県庁内で整理したい。
- 働きたくても、働けない人は、自己否定感が強いということは、大きな問題であり、三重県の子ども条例の前文でも「自己肯定感」という言葉を書いている。
- 新しいものを創ってどうこうするのではなく、まずは、既存の仕組みや今ががんばっている人たちがちゃんとつながることを具体的にやってみることも非常に大切だと思う。

